

# 「御霊に従って歩む恵み」

## ローマ8：4

堀田修一 23・6・11

本日のみことばから、御聖霊について語られます。律法から御聖霊の恵みに移ります。

### I 罪の処罰の目的

神が、大切な御子を十字架において、私たちの罪を処罰された目的は何でしょう。本日のみことばは語ります。

1. 「それは、肉に従わず御霊に従って歩む私たちのうちに律法の要求が満たされるためなのです」：4。「満たされる」とは「成就される」という意味。これが最終の目的です。
2. 「主が十字架で死なれたのは、私たちの罪の赦しのためだった」も確かです。
3. 「主が十字架で死に、復活されたのは、私たちが永遠のいのちを得るため」も確かです。
4. そして、もう一つの大切な目的は＝「御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです」：4。ローマ3：28，31で語られています。  
「人は律法の行いとは関わりなく、信仰によって義と認められる…それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法を確立することになります」。

### II 律法の要求が満たされるとは

1. 罪は、主を信じる人の心に残っていますが、神の御目的は、御子の十字架と復活による勝利が、私たちのうちにも起きることです。律法の要求が満たされるために。「満たされる」とは、律法が「成就される」という意味です。モーセの十戒の戒めが、御聖霊に頼るとき力を得て、守られるという恵み。

御子を信じる信仰は、「律法を確立」します。これこそ、神が御子をなだめの供え物とされた目的です。主イエスも、そのことを明言されました。

「わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思っはなりません。廃棄するのではなく成就するために来たのです」(マタイ5：17)

これは確実な主のみことばです。主御自身が、ご自分が来られた目的は、律法を成就するためだと語っておられるのです。ここに最終的な目的があるのです。主が来られるまで、私たち人間の罪の性質の故に、律法の正しい要求は無視されてきました。モーセの十戒を守ることはできなかつたのです。すべての人は、自分の力で律法を外側の行いだけでなく、心に何の悪い思いもなく完全に守ることは不可能なのです。

2. 律法が「満たされる」とは受け身形です。それは、私たちの努力で自分の力ではなすことはできない事を示します。「御霊に従って歩む私たちが、律法の要求を満たす」とは語られていません。それは、「満たされる」事であり、私たちが自分の力で「満たす」のではありません。キリスト者は、今や主の十字架で罪が処罰されたので、御聖霊により新しい力が与られますので、神の律法（みこころ）を御聖霊の助けで実行するように変えられます。それ故、キリスト者が自分の力で律法を全うするとは、みことばに記されていません。律法の要求を満たすのは、私たちの力ではなく、御聖霊による事は、私たちの現実と合致します。

キリスト者になったので律法の要求を全部全うできるようになったかと問われると「そうです」と答えることができる人はいません。ローマ7章に記されたキリスト者の罪との戦いの現実も事実です。ですから、誤解してはならないことがあります。「律法の要求が満たされる」とは、律法を完全に行うという意味ではないのです。もはや罪を犯さないという意味でもありません。これは、聖書全体を読むと分かります。それは「要求」ということばが、単数であることから理解できます。その単数の要求とは「神の栄光のために生きるという根本的な生き方」であり、地上で完全にきよめられ、律法の一つ一つを完全に守り生きていくという意味ではありません。そうであるなら、福音はもう一つの「律法主義」になってしまいます。そうではなく、「律法の要求が満たされる」とは、「律法が要求する神の栄光の為に生きること」です→「こういうわけで、あなたがたは、…何をするにも、すべて神の栄光を現すためにしなさい」Ⅰコリント10：31。

### Ⅲ 「御霊に従って歩む」

1. 御霊に従い、御霊に頼って歩むときに、「律法（神のみこころ、みことば）の要求が満たされる（受け身形）」のです。

2. 二つの生き方があります。

①「肉に従う」生き方。肉（心の罪の性質）にコントロールされて生きる。肉（心の罪の性質）に従って生きる人の特徴は、「神を恐れることがない」ことです。神は邪魔で「自分の好きなように生きたい」という人生。私も主を信じる前は、そうでした。ただ、そこには大きな誤解、過ちがあります。それは、「神なんか頼らず、自分の力で自分の好きなように生きるんだ」と多くの方は思いますが、実は、生きるいのちも、体も神が与えられた恵みに気づいていないのです。私たちはみな、自分で生きているのではなく、神に生かされているのです。「天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を昇らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるのです」マタイ5：45。私を含めて多くの人が、「自分は自分の力で生きているのではなく、神に生かされている」と神に感謝する人生に変えられ続けたい！

②もう一つの生き方＝「御霊に従って歩む」人生。私たちはある時、御聖霊の導きで聖書のみことばを聞き、心の目を覚まさせられます。死んでいたものが自分のうちで生き始めるのです。自分の恥ずかしい罪（心の悪い思いと人に気づかれていない神のみが見ておられ

る悪い行い)を示され、自分が神の前に罪人であることが始めて分かり、罪を認め主を信じ、これまでとは違う新しいいのちが、自分の中に生き始めるのを感じます。御聖霊は、これからは神に喜ばれる事をしよう、神を第一にして生きていこうという志を与えられる。そこに本当の喜びを感じる。みことばに飢え渴いて、聖霊が多くの記者を用いて記された聖書のみことばを喜んで読み味わう、よく心で噛み締める。※証し。そのような変化は御聖霊の働きです。その時から、御聖霊の影響力を受けるようになる。肉、罪の性質ではなく、御聖霊による義と愛の支配、コントロールが始まります。それが「御霊に従って歩む」こと。神に自分の主権を明け渡し、聖霊によるいのちのみことばの影響の下で生かされて進みましょう。